



茶娘の衣装を着た女性(左)と新茶を摘む地元の児童ら。8日午後、国頭村奥(員志大八郎撮影)

新茶の季節 早くも到来

奥で茶摘み体験

【国頭】茶どころとして有名な国頭村奥で8日、「日本一早い茶摘み体験」と銘打った催しが行われた。暖かい日差しの下、地元の親子連れなど約二十人が新茶を摘み、試飲を楽しんだ。

一日からインターネッ
トで新茶の注文受け付け
を開始している奥共同店
と京都の茶生産グループ
「京都おぶぶ茶苑」(喜多

章浩代表)が実施した。

新茶は早く収穫できるものほど価値が高いとされ、奥は本土に比べ二カ月も早い。この日は栽培する三種のうち最も新芽の出が早い「印雑」が摘まれた。糸満盛也奥茶業組合長は「二月の冷え込みで実際の収穫は例年より遅れそうだが、質はいい」と自信を見せる。



友達らと参加した東風平和さん(奥小二年)は「手もみしていただいたお茶は、おうちで飲むよりおいしかった」と話した。